

「探鳥会スタッフ通信」は、探鳥会の考え方や様々な運営手法について、全国の連携団体の探鳥会リーダーの皆様と情報交換を行うための通信です。

目次

◆私たちの探鳥会自慢

「気分はツアーコンダクター」・・・1

◆トコロジストになろう

「トコロジストを目指して」・・・4

◆マナー問題の事例

「京都府京都市のサンコウチョウの例」・・・5

◆探鳥会保険集計結果

(2014年9月分)・・・6

◆普及室からのお知らせ

・新たな『フィールドガイド日本の野鳥』に向けて増補改訂新版の取り組み・・・8

◆今月の購読者数・・・10

◆探鳥会スタッフ通信の購読について・・・11

◆編集後記・・・11

◆私たちの探鳥会自慢

埼玉の入山さんから、バスツアー探鳥会を企画・実施する際に気を付けていることについて、記事をいただきました。

「気分はツアーコンダクター」

私は日本野鳥の会埼玉で、主に日帰り又は一泊のバスツアー探鳥会を担当しています。

探鳥地は主に、奥日光や乗鞍・白樺峠等の関東近郊です。バスツアー探鳥会は埼玉県内の各所から集まり、会社の職場旅行みたいに、賑やかにしています。最近のバスツアー探鳥会は、1人では遠くに行けない人が増えた為、人気があります。

私がバスツアー探鳥会を企画・実施する際に、気を付けている点を紹介したいと思います。



▲バスツアー探鳥会（乗鞍探鳥会）

■バスの中編

1) トイレ休憩

旅行会社が実施しているバス旅行は、大体2時間走ったら15分休みが殆どです。

日本野鳥の会埼玉の私が担当しているバスツアー探鳥会だと、1時間30分位走ったら20分休みにしています。その理由は、私が、コカ・コーラのヘビードリンカー＆ヘビースモーカーなので、すぐにタバコが吸いたくなるのとトイレが非常に近いからです。その為、ちょくちょく休憩するので年配の参加者には『トイレを気にしないで済む』と好評です。

休憩までちょっと長いなと感じたら、参加者の間に『トイレに行きたい』という雰囲気が出る前に、リーダーが率先して『トイレ〜』と騒いだ方が、笑いが生まれ、バスの中がなごみますよ。

2) 時間の灯台

時間の目安となる地点を決めて、そこを通過する時の時間とのずれを確認しています。その確認作業をしないと、計画より早いのか遅れて

いるのかがわかりづらく、大きく遅れている場合は、到着してからの日程の変更を考えなければならぬからです。時間の目安となる地点を決めるときは、その地点より先が、余り渋滞がなく時間が読みやすい所で、しかも時間の目安となる地点より先に休憩をする所がある場所を設定しています。

例えば奥日光探鳥会の場合、宇都宮I・Cの通過時間を時間の目安となる地点に設定しています。その先の日光口P・Aで休憩を取り、遅れの時間を確認して休憩時間で時間調整をしています。

3) バスが通れますか？

行って通れなかったらヤバイですよ！

下見の時、狭い鉄道の高架下やトンネル等を通る場合、通行可能な高さ・幅を確認しています。その際、通行に車高・車幅制限の道路標識がある場合は、その標識の数値を覚えておきます。その様な道路を通る場合は、事前にバス会社に通る道路と標識の数値を伝え、通行可能の問い合わせをするとともに、バスの大きさを確認しています。

4) 渋滞

日頃、高速道路を使っている人は渋滞の感覚はあると思います。(いつ頃・何処から渋滞が始まって・渋滞の長さや通過時間等。)日頃から、ラジオの渋滞情報を聞くようにして、渋滞の感覚を養うように心掛けています。また、事故渋滞で時間が掛かる場合を想定して、迂回路も考えるようにしています。

5) 運転手

私は、最初にトイレ休憩に止まった時に、缶コーヒーを渡して、コミュニケーションを取るようになっています。また、雪道や細い山道等気を使う道を走った時は、ドライバーさんもプロとは言え、人間です。気を使う道を走った後は、疲れていますので休憩を入れています。その時は、『ドライバーさんが疲れたと思うので』なんてみんなの前で言っちゃだめですよ。あと、解散場所に近づいたら、御礼の言葉を忘れずにしています。

■宿泊編

1) 女性のサブリーダーを入れて

女性参加者に連絡を取ってもらったりするのをお願いしています。男性が女性の部屋を訪れるのも、ちょっと考えものですよ。

女性から見た観点も大切です。男が考えられない事に気が回ることにビックリします。

2) 女将

『宿の顔』。笑顔が大事！人が好きそうな女将が最高。ムスツとした女将の宿には泊まりたくないですよ。

3) 風呂

広いお風呂がベスト！

1つの例として、白樺峠探鳥会で宿泊する民宿のお風呂は狭いです。(食事が参加者に好評なので、宿を変更する予定はありません。)その為、以前の探鳥会では全員がお風呂を済ませるのに時間が掛かりました。夕食を遅くしたり、観察場所から早く引き上げてきたりして対応していましたが、最近の探鳥会では、民宿の近くの日帰り温泉施設を利用して、この問題点を解決しました。

4) 食事

アレルギーや常用薬で食べられない物があるのを知っていますか？(特に常用薬)

一泊の探鳥会の夕食の時、食後のデザートにグレープフルーツが出た事があって、それを残す参加者が多かった事がありました。残した人の話を聞いてみると『高血圧の薬を飲んでいるので食べられない。』との事。

せっかく出してもらっているのに食べられないのは残念ですよ。今後は、宿泊先と食事の内容について打ち合わせをした方が良いと思いました。それに参加申し込みの時、食べられない物について聞くのも1つの方法だと思いました。

4) 親睦会

今日見た鳥達を酒の肴にして和気あいあい、趣味の仲間で飲むお酒はおいしいですよ。

ただし、お酒が飲めない人への考慮を忘れずにしています。ソフトドリンクを用意するのは当然ですが、私は親睦会の際は、飲めない人の所でおしゃべりをするように心がけています。

■100円ショップ活用編

1) バンダナ

私が担当する探鳥会で、班分けが必要な時や探鳥地が混雑している場所では目印にバンダナを使用しています。特に、このような探鳥会を担当していたり、企画したりしているリーダーの方にお勧めしたいと思っています。

成功した事例として、白樺峠探鳥会で天気が悪くなってきたので、早めに出発しようとした所、参加者の1人がいませんでした。初めて会った参加者で、面識がありませんでした。探しまわっていると、バンダナをしているその参加者を見つける事ができました。その時はバンダナをしていて良かったと思いました。また乗鞍探鳥会では、500人を超える登山者と参加者の区別ができ、迷子を出さずに済みました。奥日光探鳥会では、参加者が多い為、班分けをしています。その際、バンダナの色で区別しています。

2) クリップ

バンダナを止める為に使っています。最初の頃は、いろいろな物で試しましたが、最近はその付いている物や、形がかわいい物を使っています。値段もあまり変わりませんし、参加者からは『かわいい〜』の一言がありましたから。

■最後に

1) 問題点は必ずある

逆を言うと「問題点の無い探鳥会はない」。計画を立てている段階で、予想できる問題点を全部出すようにしています。

例えば白樺峠探鳥会では、主な問題点として、埼玉から片道 200km を超える道の往復をバスで移動すると、時間が掛かり、特に帰りは渋滞で到着の時間が読めません。また、探鳥会当日に雨が降ったり、台風が来たりする事も予想できます。

その為、長野まで新幹線を利用し、そこからバスで行くようにして渋滞を回避したり、台風が来たときは探鳥会を中止にして、宿泊先やバスを無料でキャンセルできるようお願いしたり、雨天でも観察できる探鳥地を何ヶ所か探したりと対策を考えました。

このように対策に関しては、おもに3つ考えられます。

- ①日程の変更⇒日程の変更案をたくさん用意する(雨天時や天気の急変・渋滞等による日程の遅れ)
- ②物品による対処⇒(バンダナや救急用品)
- ③探鳥会の運営方法の変更⇒鳥以外に詳しい人・探鳥地に詳しい人にサブリーダーをお願いする(雨天時、探鳥地で鳥が見られなかった時に昆虫や植物についての解説)。特に日程の変更案を考える場合、地元のパンフレットをたくさん集めておくと後で重宝します。

2) サブリーダーとのコミュニケーション

探鳥会の内容をすべて伝えます。その中で、問題点を話し合って対策を考えます。個人・個人考え方が違って当然！自分の意見を通そうとせず、相手の意見に耳を傾けています。

1つの例として、乗鞍探鳥会のコース設定でサブリーダーとの意見が違った時がありました。私は、ライチョウが見られる保証がないので、お花畑で高山植物を中心で行う考えでした。サブリーダーは、探鳥会だから見られなくてもライチョウ中心で行うべきと意見が違っていました。コース設定の時、お互いで協議をして納得できるコース設定を作成しました。

(到着したら最初にライチョウを探し、見られなくても昼食後にお花畑を散策するコース設定。)

このようにお互いの意見を出し合って協議して妥協する所をみつければきっと良い結果が生まれますよ。おかげで探鳥会の際は、ライチョウも見ることができ、きれいな花の高山植物も見ることができました。



▲乗鞍探鳥会での集合写真

3) 最後の最後に

バスを降りる時、参加者から「今日は楽しかった」と言われるのがうれしくて毎回行っています。後日、参加者から「探鳥地が気に入ったので、また行きました」と言われれば探鳥会をやってよかったと実感できる時で、またやろうとファイトが湧いてきます。

このようなバスツアー探鳥会は、参加者がいて成り立ちます。探鳥会の内容が魅力的でも、参加者がいなければ探鳥会が成り立ちません。ですから私は、いつでも参加者の視線に立ってバスツアー探鳥会を行えばよいと思っています。

最後に、皆様に何か参考になる事があったら幸いです。(日本野鳥の会埼玉幹事/入山博)

◆トコロジストになろう

今月は愛媛の山本代表に、ご自身がトコロジストとして目覚めていった経験を語っていただきました。山本代表は、子どものころから支部の探鳥会で育ち、現在では愛媛の代表を務める一方で、西条自然学校を運営されています。

山本代表はどのようにして現在に至ったのでしょうか？さっそくお話を聞いてみましょう。

(普及室／箱田敦只)

第8回「トコロジストを目指して」

■支部の探鳥会で育った子ども時代

毎月開催されている、松山城山探鳥会に初めて参加したのは、もう30年以上前になります。当時の支部長であった故石原保先生は昆虫の研究者であり、鳥を知ることは、植物や昆虫を知ることにも繋がることをお話しされていました。続く、故森川国康先生も自然全般に詳しく、こうした高名な先生のお話を身近で聞くことができるのが探鳥会の楽しみでした。小学生の会員は一人だったこともあり、皆、大事にしてくださいました。

現実には、愛媛は公共工事に依存した地方の体質があり、土建業は地域の基盤産業であり、海岸は埋め立てられ、川は護岸されていきました。自然に恵まれ、自然の中で育った人々が、いとも簡単に自然を壊していく様は、生活のためとはいえ、虚しく、怒りに満ちた十代でした。そんな中で出会った博物館の方に憧れ、将来、博物館で働きたいと思うようになりました。自然を壊していく人々は、その場所の本当の姿を知らないのではないか。地域の自然を調べ、本当の姿が分かることで、少しでも配慮がなされるようになるのではないか。そんな思いもありました。

■地理学を学んだ大学時代

本当は、生物の学べる大学に進学したかったのですが、叶わず、地理学を勉強することになりました。しかし、これは後に非常に役に立ちました。

地理学では、自然、土地利用、産業、交通など、自然から人文について幅広く扱い、地域を理解するために必要なことを学ぶことができます。地形図の読み方、土地利用図の作成、野外実習など、さながらトコロジスト養成学科のようでした。地域を知るためには、「はじめに地面あり」と思うようになったのも、地理学の

おかげです。まず、地質があり、地質は地形に影響を与え、地形は気候と合わさり、植生に影響を与え、植生はそこに生息する生物に影響を与える。そんなイメージを描くことができるようになってきました。



▲海岸の生きもの観察会の様子

■博物館と西条自然学校

卒業と同時に運よく、建設中の博物館に就職が決まりました。博物館では、ほぼ半分は事務や自然とは異なる業務でしたが、仕事として地域の自然を調べる事に携わることができました。調べて、研究報告を書き、観察会を開催する。充実した日々の中で、これらが本当に自然環境の保全に繋がっているのか、研究報告は誰が読んでいるのか。観察会はイベントになっていないか、という思いも持ち始めていました。

そこで、思いついたのが、地域の人々が地域の自然を学ぶ場を創ることでした。毎月1回、第3水曜日の夜に、市内の文化施設を借り、「西条自然学校 夜の学校」と名づけた勉強会を始めました。これまでに自分が調べたことや、卒論や修士論文の調査で愛媛に関わった学生、若手の研究者を講師に、1時間のお話を聞く会です。地方では、自然や環境について継続して学べる機会や場所はほとんどなく、問題に直面しても、思いや感情だけで対応する場面を見ました。

対象は、20代から40代の大人とし、仕事帰りに聞きに来てもらえることを狙いました。若い世代が自然を正しく理解し、その知識が家庭や職場で再生産されることが大切だと考えたからです。夜の学校は現在10年目を迎え、毎月30～40名が聴講しています。

■西条自然学校を事業化

「夜の学校」を機会に、より地域に密着した活動を行うため、博物館を退職し、石鎚山麓にある廃校を拠点に活動を始めました。調査は知識の生産活動と捉え、ベースにしつつ、体験教室や自然観察ガイドを行っています。現在は、学校などへの出張講座も含めると、年間約30

0事業を行っています。また、行政を地域の自然を保全する重要なパートナー捉え、建設、農林、教育、観光など様々な部署と連携して提案、サポートを行っています。

知識や行動が深くおよぶのは、地理的に限られた範囲だと思います。昭和の合併が行われる前の「村」の単位がちょうどよいのかもしれませんが。それぞれの地域で、自然に大きく負担を掛けず暮らすために、地域の自然をよく知る活動が根付けば、その集合体として県、国の自然が守られることに繋がるのだと思います。

(日本野鳥の会愛媛代表/山本貴仁)

◆マナー問題の事例

「京都府京都市のサンコウチョウの例」

京都支部の中村桂子さんからいただいた事例をご紹介します。

日時までは覚えていませんが、数年前、京都市右京区の保津峡で起きた迷惑問題と対応について紹介します。

場所は、京都の観光地でもある「保津峡（ほづきょう）」急峻な斜面を走る道路は、一方は崖、一方は保津川となっています。

サンコウチョウが巣を掛けた場所は、道路から川側へ至る木でした。道路からよく見えることもあり、撮影者が殺到しました。

自動車のすれ違いも難しいような細い道です。その片側に撮影者の自動車が駐車し、一般の方々へ、多大な迷惑がかかることになりました。一般の方から見れば、野鳥の撮影者＝日本

野鳥の会の会員となります。（日本野鳥の会の会員とは思いたくありませんが・・・）

日本野鳥の会京都支部の事務所に「何とかしろ！」と通報が入りました。

京都支部では、京都府警の右京警察署「地域課」に連絡し、駐車取り締まりのパトロールを要請しました。

その結果、潮が引くように自動車の数は減っていきました。

サンコウチョウはと言うと、残念ながら「時すでに遅し」。それ以来姿を見せなくなりました。

中村さん、事例の紹介ありがとうございました。

ポイントは、迷惑を受けた対象は、サンコウチョウと一般の道路の利用者。

公道において、一般の道路利用者への迷惑行為への対応をすることで、サンコウチョウへの悪影響も軽減できるという事例だと思います。

各地の良い事例、あるいは対応が上手くいかなかった事例でも結構ですので、tancho-staff@wbsj.org まで投稿をお待ちしています。簡単で構いません。メールやお電話で、取材させていただくことも可能です。

よろしく願います。

(普及室/富岡辰先)

◆探鳥会保険集計結果（2014年9月分）

9月は67支部からご報告をいただき、計262回の探鳥会が開催され、のべ5,131人が参加されました。

表1. 9月の探鳥会保険集計結果（2014年10月15日現在）

支部	開催回数 (回)	参加者数		スタッフ数 (人)	合計人数 (人)
		会員(人)	非会員(人)		
小清水	-	-	-	-	-
オホーツク支部	1	14	7	1	22
根室支部	-	-	-	-	-
釧路支部	2	14	15	5	34
NPO法人日本野鳥の会十勝支部	-	-	-	-	-
旭川支部	0	0	0	0	0
滝川支部	1	18	1	2	21
道北支部	1	0	10	8	18
江別支部	-	-	-	-	-
札幌支部	3	49	23	12	84
小樽支部	3	10	4	3	17
苫小牧支部	-	-	-	-	-
室蘭支部	1	24	2	3	29
函館支部	-	-	-	-	-
道南桧山	1	11	6	2	19
青森県支部	-	-	-	-	-
弘前支部	2	23	3	2	28
秋田県支部	3	26	4	3	33
山形県支部	3	25	6	3	34
宮古支部	-	-	-	-	-
もりおか	1	13	8	4	25
北上支部	0	0	0	0	0
宮城県支部	3	38	11	6	55
ふくしま	2	38	0	4	42
郡山支部	1	22	5	3	30
二本松	1	4	0	1	5
白河支部	1	2	0	2	4
会津支部	-	-	-	-	-
奥会津連合	-	-	-	-	-
いわき支部	2	29	1	2	32
福島県相双支部	-	-	-	-	-
南相馬	-	-	-	-	-
茨城県	12	109	84	20	213
栃木	-	-	-	-	-
群馬	6	46	4	12	62
吾妻	1	5	0	1	6
埼玉	5	114	33	39	186
千葉県	8	125	38	33	196
東京	11	274	7	50	331
奥多摩支部	19	236	44	43	323
神奈川支部	13	170	33	45	248
新潟県	-	-	-	-	-
佐渡支部	-	-	-	-	-

富山	2	39	5	2	46
石川	3	46	10	7	63
福井県	3	20	1	4	25
長野支部	6	77	13	12	102
軽井沢支部	1	12	9	1	22
諏訪	1	5	2	1	8
木曾支部	-	-	-	-	-
伊那谷支部	-	-	-	-	-
甲府支部	2	35	3	4	42
富士山麓支部	1	4	1	2	7
東富士	-	-	-	-	-
沼津支部	2	25	3	4	32
南富士支部	2	57	15	4	76
南伊豆	1	8	2	2	12
静岡支部	4	19	0	7	26
遠江	4	81	11	12	104
愛知県支部	9	95	72	21	188
岐阜	-	-	-	-	-
三重	3	27	5	5	37
奈良支部	3	82	4	6	92
和歌山県支部	1	5	5	2	12
滋賀	5	28	15	10	53
京都支部	6	84	15	10	109
大阪支部	21	314	72	100	486
ひょうご	6	118	135	13	266
NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	3	29	7	3	39
島根県支部	1	6	0	1	7
岡山県支部	4	94	42	14	150
広島県支部	3	33	37	3	73
山口県支部	3	18	14	4	36
香川県支部	5	93	40	5	138
徳島県支部	6	53	15	6	74
高知支部	3	17	24	3	44
愛媛	7	48	54	12	114
北九州	4	41	7	4	52
福岡支部	8	107	25	16	148
筑豊	6	33	3	6	42
筑後支部	5	38	6	5	49
佐賀県支部	3	55	10	3	68
長崎県支部	-	-	-	-	-
熊本県支部	3	52	14	4	70
大分県支部	2	23	11	2	36
宮崎県支部	1	9	11	1	21
鹿児島	2	49	9	7	65
やんばる支部	-	-	-	-	-
石垣島支部	-	-	-	-	-
西表支部	-	-	-	-	-
全国	262	3,418	1,076	637	5,131

備考：-は保険の申請がなかったことを示しています。

(普及室)

◆普及室からのお知らせ

■新たな『フィールドガイド日本の野鳥』に向けて増補改訂新版の取り組み■

◇分類の混乱？

全国の支部報などを拝見していると、発行物や野鳥リストを日本鳥学会による新たな日本鳥類目録、改訂第7版に沿って改訂されたところが少なくありません。ご苦労が偲ばれ、遅れている新版を担当している立場と致しましては、ご尽力に頭が下がる思いです。なお、前回、お詫び致しました印刷の遅れについては、パソコンソフトを古いものから新しいものに変えながら作業しているためと判明し、現在は印刷があがったものから編集、校正に入っております。

博物館や動物園はどうしているのか？ 付き合いがあるところに聞いてみました。某動物園では展示鳥類の目や科については、日本鳥類目録とIOC（国際鳥類学会議）によるリストに準拠させる方針とのことでした。が、「新たな目録に沿った書き直しは済んだのでしょうか？」と確認してもらったら、チョウゲンボウがタカ目のままになっていたそうです（タカ目ハヤブサ科という分類は、目録7版ではハヤブサ目ハヤブサ科とされた）。某博物館では標本の分類は目録7版に沿わせたものの、展示についてはこれからとのことでした。

仕事で立ち寄った動物園で分類の表示に注意してみると、ヒトの分類を「霊長目」として表記してありました。新しくするならサル目としてヒト科にはチンパンジーやゴリラも含めるべきですが、その場合は食肉目や齧歯目は、それぞれネコ目やネズミ目に改めた方がよいでしょう。

哺乳類の分類は鳥類ほど話題にならないようですが、絶滅さえ話題にされないトキノウモウダニ（日本産のトキにはいたが、現在、飼育や放鳥されているトキからは見つからない）のような生物もいます。ダニの研究者に聞いた話ですが、鳥類の鼻孔だけに生息するダニもいることがわかってきたものの、鳥の嘴を切断しないと調べられないので、まだ分類以前の段階のようです。また、ある菌類の研究者は「キノコの分類は不明や変更が多すぎて、図鑑の改訂どころではない」と言っておられました。

鳥の世界に話しを戻すと、今年6月に国立科学博物館と山階鳥類研究所の共同プロジェクト「日本産鳥類のDNA バーコーディング」が完成し、発表されました。当会では2012年に野鳥誌7月号で同プロジェクトの要である西海功さんに「鳥の分類—DNAによる最新知見と分類の行方」を解説いただいておりますが、11月8日の連携団体総会でも西海さんに「DNA解析で見えてきた東アジア鳥類の多様性と分類の今後」と題して、最新の研究成果を講演していただきました。

小見出しを「混乱？」としてしまいました。 「日本鳥類目録改訂第7版の変更点」として野鳥誌（2013年）などに書かせていただいたように、今も研究は続いており、今後も研究が必要であることを再確認する機会と捉えたいと思います。

◇掲載順をどうする？

新版の原稿から抜粋します。

「生物とは何か？」「種とは何か？」は生物学の大きなテーマであり、分類も確定されているものではない。近年はDNAを用いた分子系統学的研究が進み、これまでの、主として形態による分類の学説とは違う見解が採用されはじめています。目録7版もそのような世界的潮流になりつつある新たな分類の考え方が採用され、掲載順も目録6版までと異なり、キジ目から掲載された。

本書の日本鳥類リスト、分類や種名は目録7版に準拠させたが、解説の掲載順は変えなかった。目録6版までのアビ目アビ科ではじまりスズメ目カラス科で終わる掲載順を原則とし、「水辺の鳥」・「山野の鳥」に分けた原著の構成を活かし、見返しやカラーインデックスもそれに対応させた増補改訂版のままとした。目録7版でヒタキ科に統合された旧ツグミ科はツグミ類として、キジ科に統合された旧ライチョウ科はライチョウ類として原著の掲載順のままとしたが、目や科の変更については科の解説で触れるようにした。

多くの種を扱う図鑑では、掲載順も目録7版

に沿わせて改訂版が発行されたものもあります。これまでの掲載順に慣れている方にとっては、7版の掲載順に馴染むのは大変ですが、7版と同じ順番のリストを使う場合には対応させやすいという利点はあります。分類が固定的なものではない以上、著者がどう考えるか次第であるのは止む無いと云わざるを得ません。ただ、掲載順にこだわるとしたら、まずは目・科・種などの配列の意味、どのように研究されているかを知る必要があると思います。

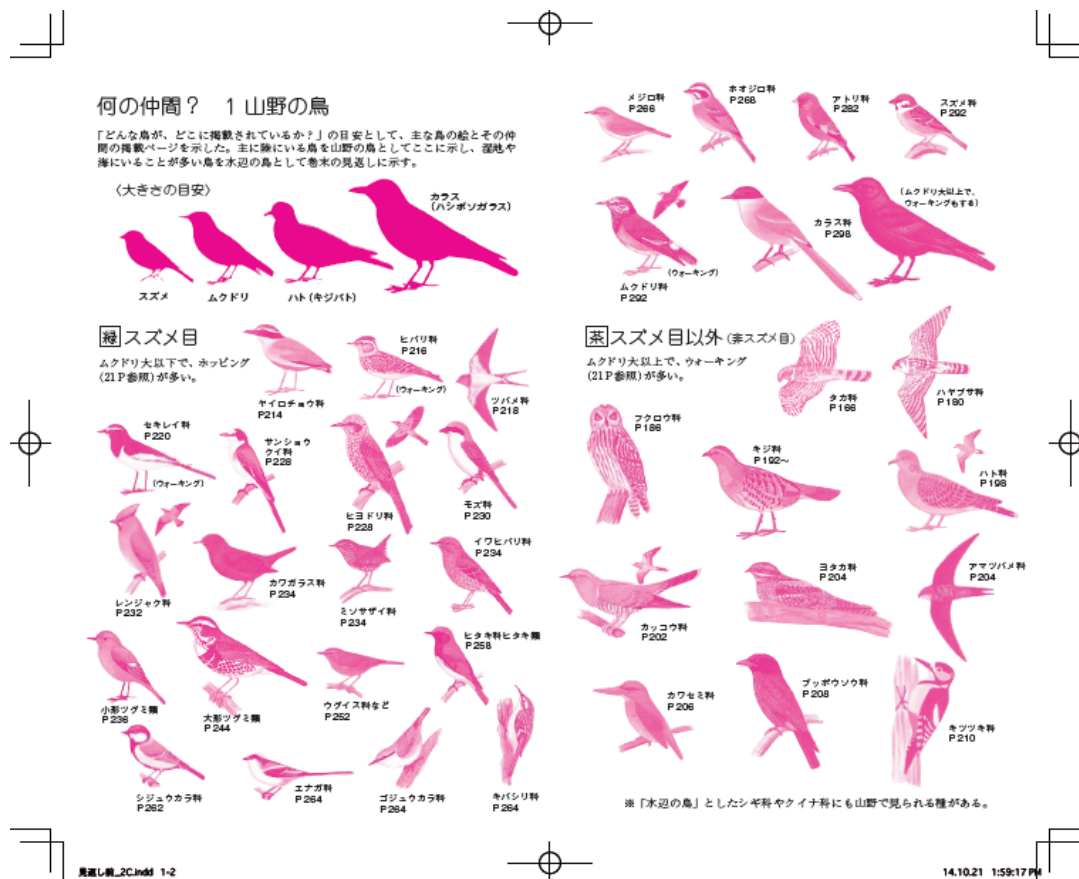
◇ツグミかヒタキか？、小型か大型か？

日本鳥類目録の改訂は10年を目処に検討されるため、現時点では目録の改訂第8版がどうなるものになるのか？はわかりません。当会としてはその時代の目録に沿うように努めたいと考えていますが、すべてを合わせるがよいとは限りません。例えば、これまでの小型ツグミ類、大型ツグミ類などの仲間分けはなくしてしまってよいのでしょうか？ 新版では

これまで通りの掲載順としたので、ヒタキ科小型ツグミ類、ヒタキ科大形ツグミ類、ヒタキ科ヒタキ類として、便宜的に慣例として使われてきた仲間分けは残すようにしました。樹上の夏鳥が多いヒタキ類と、丈夫な足で地上採食、冬鳥が多いツグミ類は野外識別では区分しやすいからです。

ただし、ヒタキ類とされるオジロビタキは冬に見られるなど例外もあります。小型か、大型か？では増補改訂時に悩みました。ほぼスズメ大の大きさで小型ツグミ、ムクドリ大前後で大型ツグミと呼ぶことが慣例でしたが、増補改訂版でハイロチャツグミを追記することになりました。その全長は17cmです。小型ツグミと呼ぶには大きいし、大型ツグミと呼ぶには小さいので、結局、どちらにも属させていません。新版では、全長16cm以下を小型ツグミ類と定義しておきました。

(普及室/安西英明)



▲フィールドガイド日本の野鳥 増補改訂新版 で校正中の見返し頁(図版:高野伸二) ハタオドリ科は目録7版に沿ってスズメ科としたが、小型ツグミ類・大型ツグミ類などは残したいと考えています。

◆今月の購読者数

探鳥会スタッフ通信11月号の電子メール版の購読者数は、先月から14名増えて825名です。支部ごとの購読者数は以下の通りです。

表2. 探鳥会スタッフ通信11月号電子メール版の購読者数(2014年11月19日現在)

支部	購読者数	支部	購読者数
小清水	1	福井県	10
オホーツク支部	6	長野支部	2
根室支部	0	軽井沢支部	2
釧路支部	2	諏訪	4
NPO法人日本野鳥の会十勝支部	70	木曽支部	1
旭川支部	4	伊那谷支部	1
滝川支部	1	甲府支部	1
道北支部	1	富士山麓支部	0
江別支部	0	東富士	0
札幌支部	1	沼津支部	3
小樽支部	3	南富士支部	2
苫小牧支部	2	南伊豆	2
室蘭支部	4	静岡支部	3
函館支部	0	遠江	6
道南松山	2	愛知県支部	33
青森県支部	1	岐阜	5
弘前支部	4	三重	17
秋田県支部	1	奈良支部	1
山形県支部	3	和歌山県支部	2
宮古支部	1	滋賀	19
もりおか	2	京都支部	131
北上支部	1	大阪支部	21
宮城県支部	38	ひょうご	8
ふくしま	2	NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	11
郡山支部	1	島根県支部	2
二本松	1	岡山県支部	23
白河支部	2	広島県支部	7
会津支部	2	山口県支部	4
奥会津連合	0	香川県支部	3
いわき支部	1	徳島県支部	5
福島県相双支部	0	高知支部	1
南相馬	0	愛媛	14
茨城県	21	北九州	12
栃木	45	福岡支部	12
群馬	23	筑豊	20
吾妻	1	筑後支部	6
埼玉	35	佐賀県支部	3
千葉県	15	長崎県支部	1
東京	48	熊本県支部	5
奥多摩支部	47	大分県支部	2
神奈川支部	13	宮崎県支部	3
新潟県	1	鹿児島	1
佐渡支部	1	やんばる支部	0
富山	1	石垣島支部	1
石川	5	西表支部	2
		合計	825

(普及室)

◆探鳥会スタッフ通信（電子メール版）の購読について

探鳥会スタッフ通信は、支部の探鳥会スタッフならどなたでも購読できます。（無料です）
ご希望の方は、「探鳥会スタッフ通信希望」と明記のうえ、①支部名 ②担当している探鳥会名 ③お名前 ④ご住所 ⑤電話番号 ⑥メールアドレス（パソコンやスマートフォンのアド

レス）を記入し、tancho-staff@wbsj.orgへお申し込みください。バックナンバーとともにメール版を送信いたします。

配信を希望されない、メールアドレスの変更などについても、tancho-staff@wbsj.orgまでお知らせください。

★編集後記

今月9日の茨城県での開催を皮切りに、関東ブロック所属の支部と進めている「会員を増やすための探鳥会」が始まり、各地の探鳥会に出掛けています。お会いした皆さんありがとうございました。各地の様子は本通信で紹介していきたいと思えます。

朝夕はひととき冷え込むようになりました。体調には気を付けてお過ごしください。

（普及室／堀本理華）

日本野鳥の会

探鳥会スタッフ通信 第20号

◆発行

(公財)日本野鳥の会 2014年11月20日

◆担当

普及室 普及教育グループ

〒141-0031

東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル

TEL : 03-5436-2622

FAX : 03-5436-2635

E-mail : tancho-staff@wbsj.org
